

日本小児がん研究グループ小児固形腫瘍観察研究に登録いただいた患者さんまたは代諾者の方へ

## 播種性小児低悪性度神経膠腫の分子遺伝学的解析 —国際共同研究— について

### 1. 研究の背景と目的

低悪性度神経膠腫(グリオーマ)は、小児脳腫瘍の中で最も頻度の高い腫瘍です。低悪性度神経膠腫は 1 か所に塊として認められることがほとんどです。しかし、まれに播種(脳～脊髄内の様々な部位に腫瘍が広がること)をきたすことがあります。診断されたときから播種性病変がみられる場合、また経過中に播種病変がでてくる場合もあります。

近年、小児脳腫瘍の遺伝子解析の研究が進み、腫瘍発症のメカニズムや予後予測や治療標的となる異常が同定されてきました。しかし、このような播種をきたす低悪性度神経膠腫については、まだ明らかにされていません。本研究では、これらを明らかにし今後の治療に役立てることを目的として、トロント小児病院(The Hospital for Sick Children, カナダ)を代表機関とし国際共同で研究を行います。

### 2. 研究の対象

次の①～③のすべてを満たす方を対象

- ① 低悪性度神経膠腫と病理診断されており、播種性病変が認められた方
- ② 21 歳以下で診断されている。
- ③ 小児固形腫瘍観察研究に同意をいただいた際に「中央診断後の余剰検体を用いた余剰検体をもちいた遺伝情報に関わるゲノムの網羅的解析を含む遺伝子解析」にも同意をいただいている。

### 3. 研究の方法

臨床情報の解析を行い、疾患の特徴や治療や予後の状況を明らかにします。病理所見や遺伝子解析など分子生物学的解析を行い新たな診断方法や分類、治療方法の開発に役立つような特徴を明らかにします。遺伝子解析にはカスタムパネルでの変異解析、DNA メチル化解析、RNA シークエンス、コピー数解析などが含まれます。

### 4. 研究に用いる試料や情報

患者さんの病名、発症年齢、性別、治療内容とその結果、病理診断、髄液検査の結果などの臨床情報を利用します。また試料は、小児固形腫瘍観察研究で収集されている腫瘍検体を用います。これらは主に小児固形腫瘍観察研究のデータベースや検体保存センターに保存されていますが、本研究の実施にあたり各施設に改めて問い合わせることがあります。情報や試料

は研究用番号を用いて、誰のものか個人を特定できないような形で扱われます。これらの試料や情報は研究責任者より郵送又は電子データとしてトロント小児病院へ送付され、その解析も主に先方で行われます。また、本研究で扱ったデータをトロント小児病院においては研究完了から最低 7 年間保管されます。

## 5. 研究期間

倫理委員会承認後～2024 年 7 月 31 日

## 6. 情報の公開

研究の成果は、学会や論文で公表する予定です。

## 7. 研究組織

### 【研究代表者】

福岡講平 埼玉県立小児医療センター 血液腫瘍科  
市村幸一 順天堂大学大学院医学研究科 脳疾患連携分野研究講座  
JCCG 脳腫瘍委員会

### 【研究分担者】

瀧本 哲也 国立成育医療研究センター 小児がんセンター小児がんデータ管理科  
加藤 実穂 国立成育医療研究センター 小児がんセンター小児がんデータ管理科  
中野 嘉子 Division of Haematology/Oncology, The Hospital for Sick Children

### 【既存試料・情報の提供のみを行う機関】

JCCG 小児固形腫瘍観察研究参加施設のうち以下の施設:

千葉県立こども病院  
大阪市立総合医療センター  
奈良県立医科大学附属病院  
広島大学  
国立成育医療研究センター  
京都大学  
岡山大学病院

## 8. 連絡先

本研究に関するご質問がある場合や試料や情報を提供したくない場合には下記までご連絡下さい。それにより、患者さんに直接の不利益が生じることはありません。ただし、ご連絡をいただいた場合でも、学会や論文などですでに研究成果が報告されている情報については撤回が難しい場合があります。

市村幸一  
〒113-8421  
東京都文京区本郷 2 丁目 1-1  
順天堂大学大学院医学研究科 脳疾患連携分野研究講座

第 1.0 版

E-mail : [k.ichimura.uk@juntendo.ac.jp](mailto:k.ichimura.uk@juntendo.ac.jp)